

シマジタムラソウ *Salvia isensis* Nakai ex H.Hara

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。湿地または蛇紋岩地に生育する植物で、本地域の固有種である。

【形態】

多年生草本。茎は4角形で直立し、高さ20~80cm、下部には開出する長毛がある。葉は対生し、1~2回羽状複葉、茎の下部に集まることが多い。小葉は卵形で、葉の先端のものが大きく、側羽片はやや小形、辺縁には鈍鋸歯があり、質は一般に薄い、蛇紋岩地のものはやや厚く、脈は表面でくぼむ。花期は7~8月、茎や枝の先に長い穂状の花序を作る。花はややまばらに輪生し、がくは長さ5~6mm、花冠は淡青紫色、長さ1cm内外、筒部内面の中央に輪状に毛があり、雄ずいは曲がらず、花外に突き出る。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部(芹沢 59263)、新城(芹沢 56118)、足助(日比野修 3803)、藤岡(芹沢 49413)、豊田東部(芹沢 59318)、豊田北西部(芹沢 82208)、三好(臼井里華 712)、瀬戸尾張旭(芹沢 76010)、日進長久手(芹沢 62737)、豊明東郷(芹沢 59855)、東海知多(芹沢 73354)、半田武豊(岡本久美子 860)、常滑(芹沢 76171)、知多南部(芹沢 56657)、名古屋北部(鳥居ちる子 1014)、名古屋南東部(緑区鳴海、岡田善敏 s.n., 1944-10-10)で採集された標本もある。豊橋市から渥美半島にかけてと岡崎市周辺、犬山市から春日井市にかけてでは発見されていない。

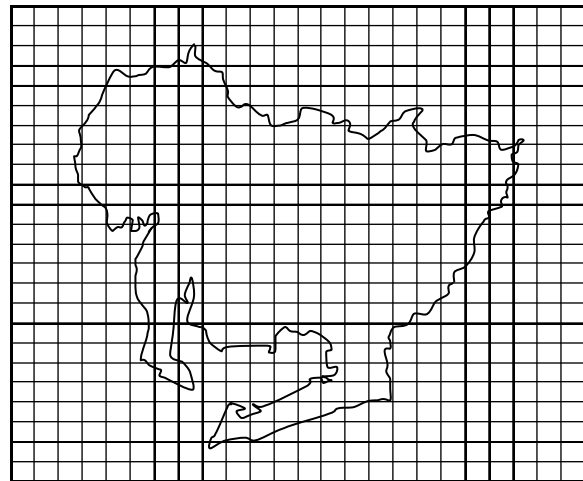
【国内の分布】

本州(岐阜県、愛知県、三重県)

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

東三河と三重県では、蛇紋岩地の疎林内や半裸地状の場所などに生育する。西三河、東三河と岐阜県では、湧水湿地周辺の林内に生育することが多いが、湿地内の日当たりのよい場所、水田わきの湿った草地などに見られることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河の一部と豊田市から名古屋市にかけての丘陵地には多いが、他では少ない。比較的耐陰性のある植物で、湿地性植物の中では森林化が進行してもかなり遅くまで林内に残存しているが、それでもあまり暗いところでは生育できない。都市近郊であるため開発圧力も強く、日進市岩崎では造成工事で生育地が破壊され消滅した。

【保全上の留意点】

東三河では、草刈りや火入れによって蛇紋岩地の森林化を抑制し、草地状態を維持することが必要である。西三河と尾張では、丘陵地の湧水湿地を、周辺の林を適宜伐採しながら維持することが必要である。

【特記事項】

集団間の遺伝的分化やナツノタムラソウ *S. lutescens* Koidz. との関係について、今後更に検討する必要がある。花の形態は、ナツノタムラソウ類とほとんど異ならない。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 7 に掲載されている。

【関連文献】

保草本 p.168、平草本 p.81、SOS 旧版 p.77 + 図版 17、環境庁 p.524、SOS 新版 p.110,112。